



75歳以上の医療費窓口負担2割にしないよう意見書の  
提出を求める請願書

【請願要旨】

2019年12月18日に発表された政府の全世代型社会保障検討会議中間報告で、現在「原則1割」の75歳以上高齢者の医療費窓口負担について「負担能力に応じたものへと改革していく」と強調。「一定所得以上」の人を対象とした「2割負担」を導入することを盛り込みました。今後、「団塊の世代」が75歳以上になり始める2022年までに実施できるよう法制上の措置を講じるとしています。

同中間報告は、“社会保障のためだ”と消費税を10%にまで引き上げながら新たな負担を高齢者に押し付ける内容です。これでは高齢者の生活はますます苦しくなってしまう。高齢者の所得の8割は公的年金が占め、約7割の世帯は公的年金のみで生活しています。その年金も減らされ続けて2020年には2013年比で実質支給額は6.4%も減っています。さらに、高齢者の貧困化の深まりで、生活保護を受給している高齢者世帯は、安倍政権下で1.2倍以上に増えています。これ以上の負担増は大幅な受診抑制を引き起こし、高齢者の生存権が脅かされることとなります。

全国の調査では、高齢者の86%の方が慢性疾患のために外来診療を受け、64%が2種類以上の慢性疾患で治療を受けています。受診回数も75歳未満の2.3倍、入院では6.2倍にも増加し、医療費の負担が極端に増えています。このため、75歳以上の医療費の自己負担は年平均7万5,000円で、窓口負担3割の若年層の4万4,000円の1.7倍も高くなっています。

後期高齢者医療費の窓口での2割負担は、コロナ危機のもとで高齢者の暮らしのち、健康を守る上で大きな影響を及ぼします。よって以下の事項を請願します。

【請願項目】

- 1、75歳以上の医療費窓口負担を2割にしないよう国にもとめる意見書を提出してください。

紹介議員

金子敏江  
渡辺 修

2021年2月 8日

団体名 飯能市社会保障をよくする会  
代表 野尻一夫  
住所 飯能市岩沢1207-31

飯能市議会議長 平沼 弘 様

